

論説

道路美私見

田村剛



道路は人や車の交通のために築造せられる工作物であるから、その目的に適合したるものほど美はしい。實用的であればあるほど美はしいと言へるかと思はれる。近頃建築や堰堤や其他の土木工作物等に就いて、無裝飾の構造そのままの美が頻りに唱通せられてゐる。道路に就いてもさうした實用に即した構成の美が基調となるべきではないかと思はれる。時として橋梁や隧道や其他石垣等に於て、とつてつけたやうな表面的な裝飾が施されてゐることがあるが、それは多くの場合却つて不快なものとなつてゐる場合が多い。材料に就いても、その材料の性質を素直に表現したものがうれしい。コンクリートを自然石のやうに見せかけたり、或は木材に擬したりするものは、道路に關しては不愉快なものとなり易い。

それよりも道路に關して最も重要な美觀上の問題は、道路をよく環境に適應せしむることではないかと思ふ。例へば市街地に於てはアスファルトやコンクリートの舗装道路は相應はしいものであるが森林地の間ではそれはいかにも不調和である。又車道には完全な舗装も必要であり、それは快感を與へるものであるが、歩道をも一様に取扱ふことは必ずしも必要ではない。一體吾々は徒歩で行く場合には土砂の地面、それは少くも感じに於ては弾力のある何となく親しめるやうな砂利道のやうなものの方が好ましい。私はイギリスの公園道路に於て、車道とその兩側の道とを區別して取扱つてゐたのでよい印象をうけたことを記憶してゐる。歩道は出来れば砂利道にして置きたい。せめては舗石道位にした方がよいやうに思ふ。東京市でも人造石の舗装をした人道が大分採用せられてゐるけれども、それがデコボコになつたり、毀れたりしてゐると、實に不快なものである。舗石が長い時代を経て磨いたやうにすりへらされてゐるのは、實に雅致があつて美はしい。支那、伊太利などの古い市街地には、さうした趣きのある道路がよく見あたるので、旅行者にとつてもなつかしい感じを與へる。人造石本位の新しいアメリカの道路とは丸で違ふ。

風景地ではイギリスやドイツやスウェーデン等のやうに、土砂道に撒水した程度のものの方が趣味としては却つて面白い。然しそこでは乗物も自動車よりも馬車の方が調和するやうである。アメリカでは風景地の道路は撒水する代りに重油を注入したものが多し。それは中央の自動車の通行する幅だけ簡易に舗装したもので、兩側は土砂のままに残され、その間に兩側から灌木や雜草が喰ひ込ん

で來てゐるやうなものをよく見受けた。これなどはよくその環境に適合した道路といふことが出來やう。

私は臺灣の蠻界で修繕した計りの道路を辿つたことがある。それは大甲溪の上流で雄渾にして粗野な大溪谷の斷崖の中腹に危く穿たれたものであつたが、丁寧にも落葉を掃除し砂利の路面には箒目のあとさへ見られたが、これなども却つて不調和なものに感ぜられた。林間の小徑などでは、どうしても落葉や朽葉が路面に散亂してゐるほどがよいやうである。

支那では登山道路を鋪裝したものが少くない。その附近から容易に得られる水成岩の板石を利用したもので、それが急峻な山道となると、同じ材料で石段を造つたものなども見うけられた。幾百階幾千階といふ實に根氣のよい仕事をやつたものもあり、その踏面が永い年月を経過して中凹にすりへらされてゐたりして、そこには茶庭の鑄びにも似た趣もあるものもあつた。

凡て風致とよく調和した道路には、その材料として附近に産出する石材や轉石を採用したものが多いやうである。

○

由來道路の美的要素は路線や路面に表はれる各種の線や形、路面の色彩等であるが、道路を歩む時、或は乗物で行く時にも、足觸り其他吾々の運動感覺に訴へる所の美的要素となるものである。市街地や廣漠たる原野や耕地の間では、かなり長い直線路があつても不快でない。それが却つて一種の

壯觀を呈するやうなこともある。然し自然風景地の間では二、三キロ以上も一直線に造られた道路は退縮な感じを與へるものである。地形に應じて適度の曲線を見ることはうれしい。そしてカーヴに従つて豫期しない景觀が繪巻物のやうに展開せられるのが、何よりも興味をそゝるものである。ドライブや歩行の楽しみは、こゝにあるといつてもよい位である。恐らくは道路の路線の美を最もよく味ふことの出来るのは平坦なる海岸や原野の間に行く時か、さもなければ丘陵地等を旅行する道路を上方から下瞰した時であらう。さうした箇所では、設計者の苦心は十分に報いられるやうな氣がする。それから縦斷勾配や横斷勾配などによつて表はされる線形をも忽にしてはならぬとつづくと思ふやうなことがある。

○ 道路の色彩は自らその材料の選定によつて決定せられるのであつて、アスファルトの黒光りのした路面などは、都會地や郊外地などでは、一種の美觀を呈することもある。殊に自動車でスムーズに馳走するやうな時に、タイヤのピチ／＼といふ快い音を聞きながら行くのは爽快なものである。それは又夜間殊に美はしいものと見えることがある。然し一般にいふならば、黒や灰色の道路といふものは美はしい方ではない。地方の地質により自然の土砂道が著るしく赤褐黄等の鮮明な色彩を呈することがある。

殊にそれが緑の野や森の間に鑿たれてゐるやうな時には、實に配色の妙を極めるのである。私は

近頃出来た阿蘇の登山道路に於て、その顯著な例を見たことを想ひ起すのである。

踏んで快いのは何といつても土砂道である。殊に花崗岩地方の明るい、そして砂質の踏み固められた道路などは理想的なものではないかと思ふ。それが市街地などになると、自然有機質なども混じて黒つぽいものになるが、それが又車馬の往来により固められてコンクリート道のやうなものになるけれども、それでもやはり一種の弾力があつて快い。私が幼時を過した小さな町の街路などはそれであつて、その路面上で繩飛をしたり、或は蠟石で繪を描いたりして遊んでゐたことを記憶してゐるが、それは近頃の舗装道路では味へない一種の親しみを覺えしめる。但し近頃の幼児はスケート遊びの出来るアスファルト道により多くの愛着を感ずるであらうか。私にはそれは判らない。

○
道路の美觀の要素として最後に最も重要なものとなるのは、その兩側に添ふ景物や眺望であると思ふ。東京市の道路は震災後實に立派なものとなつたけれども、それは未だ本統に完成された美しさを現はしてはゐない。道路は單獨には大して美はしいものとは考へ得ない。その兩側の家屋や原野や森林や湖沼と照應して始めて道路といふものの存在が明かとなるのである。東京市の道路や橋梁は實に立派なものになつたけれども、兩側の建築が不揃ひであつて、大さ、外觀等に於て區々であるから、整然とした統一のある觀に缺けてゐる。歐米や支那、近くは臺灣でさへも建築はよく整頓してゐるので、道路は引立つて見られるのである。道路はそれが直線的なものでも曲線的なもの

でも、その延長の方向に繰返しとか韻律とかの美的法則が基調となることによつて、本來物に即した美しさが發揮せられるのである。而してそれを助けるものに並木がある。田舎道などでは電柱のやうなものがその用を務めてゐることもある。並木の美觀は日本の都市では殆んど見られないと云つてもよい。それは主として架空線のために並木の高さが制限せられることに基因してゐるやうである。東京市のプラタナスやトチなどが何れも一定の高さに剪定せられるために、瘤々とした不自然な姿を呈し、いかにもいぢけた不快なものとなつてゐる。殊に地方の都會では道路の幅員の足りない所へ無理に並木を植ゑて、そのために一層こせ／＼とした道路の觀を強めてゐる場合が多い。それは寧ろない方がましである。又東京市では芝生帯を造つた例も見受けられるが、その帯が狭いために、それも却つて貧弱なものとなつてゐる。どうも我國の都會ではまだ、道路は發展の途上にあるといつたやうな感がある。

風景地の道路に就いて云へば、經費の不足のために、構造も不完全であり、いかにも立派だといはれるやうな實例を見たことがない。殊に橋梁や棧道や隧道など單調な道路に調子をつけるための絶好の機會が、無爲に終つてゐる計りでなく、それがいかにも貧弱で、却つて美觀を損してゐるものが大部分である。經費の不足が原因となつてゐる場合ばかりではない。その意匠が愚劣で安つぱい都會の橋梁の意匠をそのまま風景地に移したやうなものが馬鹿に多い。殊にコンクリート構造のもの

のに、その例が多く見うけられるやうである。田舎には時として見事な並木道を見ることがあるが、それは古い街道に限られてゐるので、その幅員を擴げた場合などには並木が衰れにも伐り除かれたりして、惜しまれるものなどもよくある圖である。風景地では路傍の林叢や岩石のやうなものをなるべく保存することによつて、道路をその土地によく適合せしめることが出来る。風景地の道路は元來展望に恵まれてゐるものが多い。それを巧みに利用して行くことも肝要である。見晴らしのために自然的な伐開きをしたり、或は休憩のための廣場を設けたりすることは、風景地の道路を美しくする手段ともなる。簡単な危険防止の駒留のやうなものも、素朴な意匠のものとして、道路の裝飾となし得る場合が少くない。ドイツではよく野面に石灰を塗つたものが並んでゐて、殊に暗い森の間にあるやうな場合には、實に道路の強調として此上もなく美はしいものとなつてゐるやうな實例をよく見たやうな氣がする。道路の美觀といふことに多少でも注意すれば、それは實に効果あるものとなるのである。要するに道路に限つたことではないが、實用的であると同時にそれがそのままに美はしく見られるといふやうな設計のものが現はれるやうにならないと、道路は本統に完成したといふわけには行かぬと思ふ。